

「在宅就労セミナー 2025」開催

社会福祉法人 東京コロニー 東京都葛飾福祉工場

〒125-0042 東京都葛飾区金町 2-8-20

助成事業の概要

本事業は、在宅で働く重度障害者（雇用、フリーランス、福祉サービス利用者など）および在宅就労を希望する人、支援者等を対象に毎年実施している。今回は、前2回に引き続き「生成 AI ツール」を主要テーマとし、急速に進化する技術が、障害のある人の働き方にどのような変化をもたらすかを「参加者とともに」考察する機会とする。

また、在宅就労グループ「es-team(エス・チーム)」の結成 25 周年という節目の年に実施するものであり、これまでの活動を振り返るとともに、生成 AI 時代における今後の多様な働き方の可能性を議論する場としても位置づける。

- テーマ：「生成 AI で変わる世界 (Vol.3)」
- 形式：Zoom によるオンライン（一部参加者および講師は都内貸会議室（中継地）を利用）
- 講師：蔵元 達志（くらもと たつし）氏

株式会社セカンドファクトリー テクニカルマネージャー

- 日時：2025 年 11 月 19 日（水）14：00～15：30
- 参加者 在宅就労者、在宅就労を希望する人、介助者・支援者、企業担当者等 計 30 名

事業の成果

講師の蔵元氏は、企業で長年、事業開発やプロダクト開発の最前線を歩んできた方で、重度障害者を対象としたプログラミング・アプリ開発の勉強会に講師として携わってきた豊富な経験から、障

害者の就労事情にも深く精通している。この稀有な経歴を持つ蔵元氏に、生成 AI 技術の進化が社会や働き方に与える具体的な影響について解説していただくことを期待した、3 年連続となる講演依頼をした。

今回は、過去 2 回のメインツールであった ChatGPT、Microsoft Copilot に加え、NotebookLM や Deep Research などの新しいツールも取り上げ、情報収集や整理、研修動画の要約、資料作成といった一連の流れの中で、生成 AI をどのように活用できるかを紹介した。まじん式プロンプトを用いたスライド自動作成など、日常業務や学習場面に応用しやすいデモンストレーションもリアルタイムで行い、参加者が自身の業務や生活に活かすための具体的なイメージを持てるよう工夫した。

アンケート結果からは、セミナー全体の満足度について「とても満足」「満足」と回答した人が大半を占め(94%)、一方で「やや不満」「不満」といった否定的な回答は見られなかった(0%)。生成 AI の説明のわかりやすさについても、概ね高い評価が得られた。NotebookLM を使った資料や動画の要約、Deep Research による情報検索、スライド作成の例などは、日常業務に応用しやすい内容として関心が高かった。

自由記述では、「自分でも NotebookLM を試してみたい」「資料作成の下書きを AI に任せて、自分は中身の確認に集中したい」といった声や、「AI がすべて決めるのではなく、最後は自分で判断することが大事だとわかった」といった意見が寄せられた。あわせて、「障害福祉サービスや在

在宅就労支援の現場では AI ツールを工夫しながら使いこなしている一方で、その取組が組織全体で十分に位置づけられていないと感じる」といった意見もみられた。現場レベルでの試行錯誤を、組織としてどのように支え、広げていくかが今後の課題であると考えられる。生成 AI を単なる自動化の道具としてではなく、自分の考えを整理し、人に伝える手助けとなる支援技術としてとらえ直すきっかけになったといえる。

セミナー終了後には、在宅就労グループ「es-team」の活動を紹介した。具体的な業務内容やこれまでの仕事例、募集の考え方などを紹介したところ、「大変参考になった」「参考になった」という回答が多く、生成 AI で学んだ内容を在宅就労の実際の場面につなげてイメージする機会となった。

■ 成果の広報、公表

本事業は、過去 2 回からの継続性を踏まえ、生成 AI 技術を活用した障害者の在宅就労支援の新たな可能性を、3 期にわたって具体的に提示した点に大きな成果がある。本年度は、従来のテキストや画像、HTML コード生成などのアップデートに加え、NotebookLM や Deep Research などのツールを組み合わせることで、情報収集・整理、資料作成といった実務に即した高度な活用例を示すことができた。

特に本事業は「参加者とともに知見を深める」ことを重視し、終了後にはアンケート協力を丁寧に依頼した。このアンケートは、単なる評価ではなく、生成 AI の具体的な活用可能性や課題を参加者と共有し、次につながる議論を深めるための一環である。回答結果はすべて集計・分析し、今後の支援活動の貴重な基盤とする。

■ 今後の展開

本事業で得られた知見は、生成 AI 技術を障害者の就労支援に具体的に活かすための重要な一歩となる。今後は、以下の地道な取り組みを通じて、在宅就労の可能性を広げていく。

第一に、生成 AI を活用した在宅での業務事例を継続的に蓄積する。この際、成功例だけでなく、うまくいかなかった点や工夫した点も含めて多角的に整理し、他の障害者や支援団体と共有する仕組みを構築することで、技術のさらなる普及を図る。

第二に、今回のセミナーで得た知見を、まずは在宅就労グループ「es-team」内の勉強会や個別支援の場で活用する。小さな単位での実践と振り返りを重ね、効果的な活用方法や指導ノウハウを確立していく。

そして、es-team 内で確実な実践を重ねた上で、これまでつながりのある関係機関や企業担当者と情報交換を継続し、無理のない範囲で在宅で担える業務の幅を広げていくことをめざす。こうした着実な取り組みを通じて、障害のある人が自分のペースでスキルを活かし、働き続けられる環境づくりに取り組んでいく。